

Mountain Ocean River Earth



# 伊豆半島の海ゴミ 一掃プロジェクト

Izu Peninsula Marine Debris Cleanup Project

## プロジェクトの内容

普段だれも潜れないエリアの海（潜水禁止）を  
プロダイバーに有償ボランティアとして依頼し  
水中清掃を実施するプロジェクト

目を背けられてきたエリアの

海洋ゴミを一掃し、蓄積された

長年の **海** の **膿** を出し切ること

2024年6月～2034年6月

- ・ 約50か所（伊豆半島内の漁港中心）
- ・ 平均年6回の実施を予定

# プロジェクトの意義

潜水禁止エリアのゴミは誰も拾えず、長年「仕方がない」「知らない」「見えないからない物」とされてきた。

しかし、**海を汚し続けている存在であり、海にあってはならない物（ゴミ）であることは皆が知っていること**でもある。

ひとりでは、許可が下りないエリアの海も、**MORE企画が団体として開拓・交渉・企画に踏み込むことで、長年の膿を出すことができる**と考える。

# プロジェクトの数値課題

## 日本ダイビング状況



日本海岸線は約34,000km

内ダイビングができるのは10%程度

# プロジェクトの数値課題

## 1年間のゴミの量

毎年、日本の海へ  
流れ出る量

約 **20万** トン



毎年、日本の海域に  
留まる量

約 **10万** トン

※推測（正確なデータは無し）、プラスチック以外のゴミも含む

<https://empowerment.tsuda.ac.jp/detail/30410>

# プロジェクトの数値課題

## ゴミと海の使用状況

1年間で海に流れ込んでいる10万トンのゴミのうち…

一般のダイバーが  
拾える海洋ゴミ

約 **1万** トン

※海岸線の10%



一般のダイバーでは  
拾えない海洋ゴミ

約 **9万** トン

※海岸線の90%



# プロジェクトの数値課題

※日本の海に流れ出るゴミの量（トン）推定

年代	1年間	10年間
1950	10,000	100,000
1960	20,000	200,000
1970	40,000	400,000
1980	50,000	500,000
1990	60,000	600,000
2000	70,000	700,000
2010	80,000	800,000
2020	90,000	900,000
	<b>420,000</b>	<b>4,200,000</b>

ダイバーが拾えないゴミの蓄積量（推定）

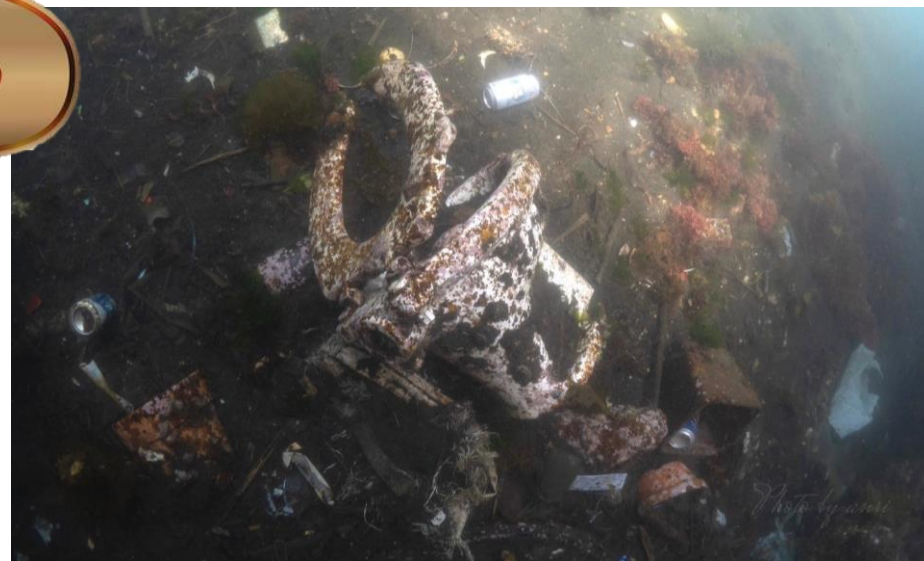
1950年代（戦後）～2024年

**420万** トン

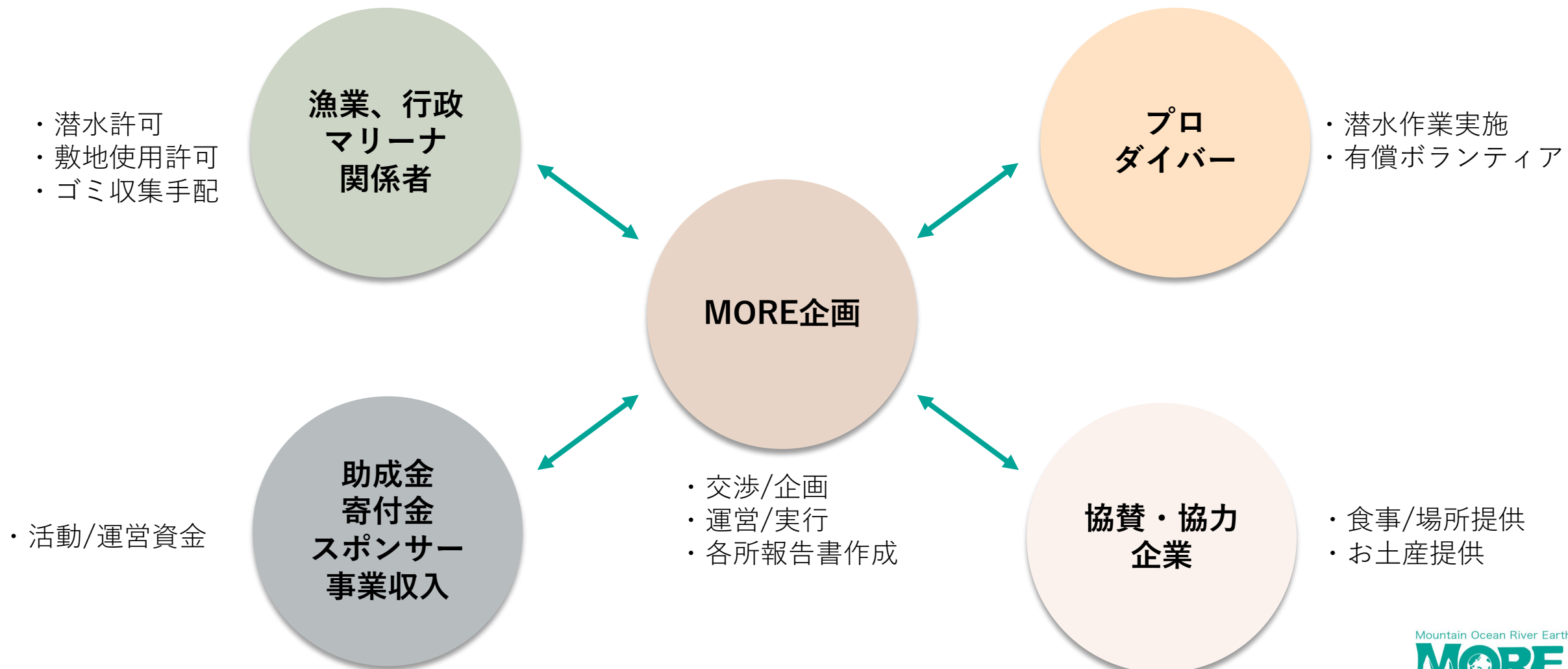
MORE企画  
と仲間たち

VS

海洋ゴミ  
約420万<sup>トン</sup>



# プロジェクトの具体的な流れ



# プロジェクトに必要な資金

## ＜必要経費＞

- 下見と準備費用（器材費、交通費、宿泊費、印刷費など）
- プロダイバーへの報酬と傷害保険料
- 施設使用料とシリンダー代
- ゴミ処理費（行政が引き取れない場合）
- 事務所維持費など

# プロジェクトの資金作り

## <資金作りの方法>

- 助成金/補助金
- 個人/企業からの寄付と協賛
- 事業収入（講演会、イベント企画運営、ダイビング学校）

# プロジェクトのスケジュール

## 2024年

6月沼津市  
10月伊東市  
11月下田市  
12月西伊豆町

**試験的实施**

## 2025年

12月～5月  
東海岸  
10月～12月  
南・西海岸

**各地1回目実施  
基盤づくり**

## 2026年

12月～5月  
東海岸  
10月～12月  
南・西海岸

**各地1-2回目実施  
後輩の育成**

## 2027年

12月～5月  
東海岸  
10月～12月  
南・西海岸

**各地2-3回目実施  
各地の実施者の育成**

## 2028年～

12月～5月  
東海岸  
10月～12月  
南・西海岸

**各地実施者に  
バトンタッチ**

# プロジェクトのまとめ

1. **ダイバーの入らない海**をプロダイバーと掃除する
2. 助成金や寄付金を使い**プロダイバーへ報酬**を支払う
3. MORE企画が各エリアを**新規開拓&基盤づくり**をする
4. 周辺地域を巻き込み**持続可能なシステム**をつくる
5. 各地で**協力者と実行者**を見つけて育てる
6. 70年蓄積されてきた**海の膿**を出す！